

日本農業新聞

紙きょうの面

9 牛用の医療機器が効果 資材

2 米ゲタ導入で難航 総合 5 著者インタビュー 読書

3 耕作放棄地ださぬ 担い手 11 冬限定くわい焼酎 社会

日本農業新聞 e 農 n e t <http://www.nougou-shimbun.ne.jp>

テレビ7面

えいのう 生産資材

動物用医療機器「ルーメンファイブ」(名和産業)

名和産業の「ルーメンファイブ」は、経口投与で牛の第1胃(ルーメン)に入れて粘膜を物理的に刺激し、半絨毛(はんじゅうも)の形成、維持を促し、栄養の吸収を良くするための動物用医療機器だ。農家に感想を聞いた。

群馬県と福島県で和洋 導入した当初は、ガス牧場を経営する島崎和洋さんが胃にたまりやすい牛さんは、交雑種(F1)のや、発育が遅れている牛肥育牛4200頭、黒毛などに与えていた。その和種の肥育・繁殖それぞれ 結果、餌の食い止まりやれ150頭に「ルーメン 発育遅れが改善され、全「ファイブ」を投与しているため、肥育牛を中心に投



「ルーメンファイブ」を投与する島崎さん(福島県須賀川市で)

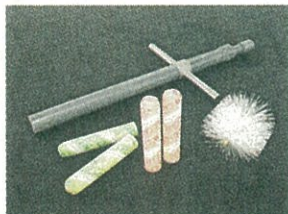
牧場経営の島崎和洋さん

与する数を増やしたとい 5000キ前後になっ た。雌も440〜450キ きたったものが470キ になり、目に見えて効果 があった。

島崎さんは「稲わらや 牧草などの粗飼料を減ら しても、肥育の成績が変 化していない牧場もある と聞いているが、現状で はより多く食べさせて、 大きな牛に育てている」と話す。

ルーメンファイブ

毛はナイロン、芯(しん)はステンレス製。紙で包まれている。動物用医療機器の承認済み。



定価(税別)は 肥育用が1本2200円、酪農・繁殖用が2500円。2007年内に購入すれば、144本の注文で72本サービス。新規購入の場合は投与器(8000円)も付く。問い合わせは名和産業(京都)フリーダイヤル(0120)543241。

増体良くなる
粗飼料を節約
投与慣れ必要

「今後は粗飼料の供給が不安定になる可能性もある。今のところは十分に」と話す。

稲わらが確保できているが、手に入らなくなった場合を想定して導入を進めたい」という。

投与は、8〜10カ月で購入した子牛を牧場へ連れて、すぐに行う。メーカーが示す目安は、体重が2500キを超えてからだ。専用の投与器を使い、「ルーメンファイブ」を1頭当たり3本入れる。

コーナー 通信簿

ガス発生抑え 鼓脹症を防止

1992年の発売以来、今年の7月で23万頭分、70万本を販売している。

メーカーから

当初は事故の報告もあったが、投与については個別指導を行い、特に新規導入の農家には現地での実演し、最初から安心して使ってもらえるようにしている。

ルーメン内の異常発酵によるガスの発生を抑える機能があり、鼓脹(こちょう)症予防にも幅広く使われている。(名和産業営業部・岡本昌也次長の話)